

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2024年5月29日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部 国際日本学科(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年5月19日
明治大学卒業予定年月	2026年3月

留学先大学について

留学先国	アメリカ
留学先大学	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(日本語名) California State University, Long Beach(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2023年8月～2023年5月
留学先大学で在籍した学年	2, 3年生
留学先の所属学部等	<p><input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称):</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:</p>
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例:1学期/4月上旬～7月下旬、 2学期/9月中旬～2月上旬	1学期:8月中旬～12月下旬 2学期:1月下旬～5月下旬 3学期: ~ 4学期: ~
学生数	33,414人
創立年	1949年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ドル)	日本円	備考
授業料	-	-円	交換型のため授業料免除
宿舎費		2,146,522 円	宿舎費は寮費・食費・社会費の合算
食費		-円	
図書費	93.72	13,732 円	秋学期教科書代(2授業分)
学用品費		-円	
携帯・インターネット費		約 50,000 円	ハナセルでの SIM 契約。
現地交通費		約 150,000 円	寮からの無料シャトルバスあり。主な交通費は観光用。(□大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		約 300,000 円	ニューヨークやボストン、ラスベガスなど各地旅行費
被服費		-円	
医療費		151,800 円	内訳としては、 ・5,500 円(初診カウンセリング) ・29,150 円(水痘、おたふくワクチン、英文文書作成費含む) ・31,570 円(髄膜炎B) ・28,600 円(髄膜炎B接種2回目) ・41,030 円(T-dap, ツベルクリン) ・15,950 円(胸部レントゲン)
保険費		334,895 円	形態:明治大学の保険(102,745 円)+留学先大学の保険(232,150 円)
渡航旅費		170,380 円	
ビザ申請費		23,200 円	
雑費		約 100,000 円	
その他		-2,050,000 円	企業の留学給付奨学金
その他		-567,000 円	明治大学の留学奨励助成金及び学業奨励給付金
合計		823,529 円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:羽田空港 **目的地:**LAX(ロサンゼルス国際空港) **経由地:**なし

復路 出発地:LAX(ロサンゼルス国際空港) **目的地:**成田空港 **経由地:**なし

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社:

料金:

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社:デルタ航空 料金:170,380 円

復路 航空会社:シンガポール航空 料金:134,520 円

∴合計:304,900 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名:)

インターネット(サイト名:Trip.com)

その他()

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前:Beachside) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数2)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

まず、留学先大学ホームページで Beachside, Parkside, Hillside という3つの大学の寮群があることを確認しました。寮の部屋の構造や具体的な施設を知るために、ホームページ内の動画を確認したり、同居人数や間取りの確認をしました。参考までに、次のリンクから寮を比較することができると思います。(<https://www.csulb.edu/student-affairs/university-housing-residential-life/tours-of-university-housing>)

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

どの寮も全体的に綺麗で、寮に住んでいる人であればどのダイニングも自由に使うことができるという点がとても魅力的でした。私は Beachside という 3 つの中で唯一キャンパス敷地外にある寮に住んでいたのですが(シャトルバスで 10 分程度の距離)、自分よりも年上の現地生や編入生が多く住んでいたため、授業やクラブ活動ではあまり出会うことのできないような人とたくさん友達になることができ、自分にとって友達の輪を広げられた場でもありました。各国留学生と友達になりたい人には Hillside の寮の一つである International Housing を、現地生と友達になってローカルに詳しくなりたい人には Beachside をおすすめします。ちなみに、 Beachside はキャンパスから少し離れている分、車を持っている現地生の友達が多く住んでいるという特徴もあるので、一緒に観光などを楽しむときに交通費をあまり気にする必要がなかったことも Beachside を選んでもよかったです。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

- なし
あり(治療を受けた場所:)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

アメリカ到着後はすぐに外務省のたびレジというものに登録/提出が必要になると思いますが、登録後は定期的にメールで現地の危険地域情報や防犯の呼びかけ等に関する情報が送られてきたので、それを参考に対策をしていました。常に意識していたことは、「スマホや財布を机に置いたりしない」ということです。貴重品は肌身離さず持つことが大事だと思います。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮にも大学にも Wi-Fi は完備されていて、敷地内であればどこでもスムーズにつながりました。街中のカフェであったり、ディズニーなどの大型施設においても基本的につながりやすい無料 Wi-Fi が設置されていることが多く、回線を開通するときの契約で節約することができました。LINE が現地では使えないのではないか、という質問を多くいただきますが、全く問題なく使うことができます。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

普段の支払いにはクレジットカードを使い、必要なときは現地に開設した銀行口座當てに、日本の親から Wise という送金アプリを用いて送金してもらっていました。具体的には、旅行で飛行機代が必要になるときや、大学の寮費・食費の支払いに必要なときに送金してもらっていました。現地での支払い方法について簡単にまとめると、

- ・クレジットカード(メインの支払い方法として利用)

- ・現地銀行デビットカード(日本から送金してもらう用、ときどき現地での支払いにも利用。現地で銀行を開設することで Zelle という多くの人が利用している個人間送金サービスも同時に使えるようになります!)

となります。アメリカでは JCB カードがほとんど使えず、主に Visa かマスター カードの利用が一般的なので、日本出発前にあらかじめ持ておくことをおすすめします。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

日本にしかないようなお菓子を持っていくと、なにかとお礼をしたいときに渡すことができて便利でした。おせんべいや、コロロなどのグミが人気でした。また、女性の場合、日本から留学期間に十分足りるくらいのナプキンを持っていくことをおすすめします。日本のものの方が質も優れていて、現地で買うと高くついてしまうため、日本から持っていくことをおすすめします。アメリカには Daiso もあるので、細かな日用品や文房具等は基本的にはすぐに手に入ります。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:(留学生は400番台～の授業が履修制限の対象となっていました。)	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Sociology(SOC100)	社会学基礎
科目設置学部・研究科	教養学部(Colledge of Leberal Arts, CLA)
履修期間	2023 年度秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Ryan Howard
授業内容	人間関係と社会構造についての授業です。具体的には、社会学を学ぶ意義や社会化、人種、性別、アメリカでの Social stratification(社会階層、ヒエラルキー)、社会逸脱と犯罪、教育、メディアと社会、結婚と家族の在り方など、社会学における幅広い内容を 16 週にわたって学習しました。
試験・課題など	授業では主にパワーポイントスライドを使って学習します。毎週末に、オンラインで章末問題と授業内容に関連するディスカッション課題が課され、期限までに回答します。この授業では中間と期末の2つの試験があり、それぞれ対面/選択問題・記述式でした。また、学期を通して4~5人のグループで特定の社会問題についてどのようなアプローチができるかについてのパワーポイントスライドを作つて提出するというグループワークも課されていました。
感想を自由記入	とても気さくで話しやすい教授でした。大講堂でスライドを用いた授業が行われるのですが、質問や意見は自由に声に出していくというスタイルで、比較的カジュアルに、自分の考えを表現できるような雰囲気がありました。章末問題は 2 回まで再挑戦できるように設定されてたり、テスト問題の中に授業に参加していれば答えられるような問題が混ざっていたり、リラックスして取り組むことができた授業の一つです。授業の始まりはいつも、「最近気になったニュース」をクラス全体で共有することから始まり、様々な意見が飛び交って盛り上がり、楽しいです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
General Psychology(PSY100)	心理学基礎
科目設置学部・研究科	教養学部(College of Liberal Arts, CLA)
履修期間	2023 年度秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Amy Wax
授業内容	心理学の幅広い基礎的内容についての授業です。具体的には、心理学の研究方法、心の変化に応じて身体がどう反応するかについての生物心理学、知覚と感覚、子どもの発達、学習と記憶、知性、社会における人間行動の法則性を見つける社会心理学、パーソナリティ、行動の異常を扱う異常心理の全てを、16 週の中で凝縮して学びました。
試験・課題など	授業では主にパワーポイントスライドを用いて学習します。毎週末に提出しなければならないような課題は特にはありませんでしたが、生物心理学に関するレポート課題2つと(nature vs. nurture についてと、身近な条件反射の例について)、実験レポート課題1つ(contextual encoding/記憶の符号化について)が学期を通して課されていました。また、授業時間外に自分で申し込んで実際に心理学の実験に被験者として参加することも、成績評価の一部に含まれました。試験について、中間、中間、期末と3つあり、いずれも授業と同じ時間だけアクセス可能、非対面/選択問題式のオンラインでの試験でした。教授が生徒思いな方で、毎テスト前の授業では1時間の授業をまるまる復習授業としてくださり、この復習授業をきちんと受講すれば試験も問題なくpass できるように設計されていました。
感想を自由記入	このAmy教授の心理学は現地生の友達にも自慢したほど、とてもおすすめの授業です。理由としては、①教授のパワーポイントスライドがとても見やすく、大量の心理学用語を整理して覚えられること②教授の質問対応がとても丁寧で、授業後どんなに忙しくても親身に質問や相談に乗ってくださること③毎テスト前の復習時間で実践問題に触れられるので、対策がしやすい授業であること④教授が授業に飼い犬を連れてきて、一番前列に座ると一緒に勉強できて癒されるここと⑤授業後は自由に犬と触れ合っていいこと、が挙げられます。



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intro to Laws & Business Trans(BLAW220)	ビジネス法基礎
科目設置学部・研究科	ビジネス学部(Colledge of Business, COB)
履修期間	2023 年度秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Frank Cardinale
授業内容	法や裁判、消費者に関する法の基礎についての授業です。ビジネス法といつてもかなり広くアメリカの法律に関する内容を学んでおり、アメリカの法制度や具体的な法律の適用方法(例えば defamation: 名誉棄損を取り上げたときに、新聞社などが企業役員などの公人に関してネガティブな発言をした場合の企業の対応と裁判内容など)、民事・刑事裁判、ビジネスと法に関わる倫理的問題などを主に学びます。
試験・課題など	授業では主にパワーポイントスライドを用いて学習します。時々、予告なしで成績加点に含まれるペア・グループワークが行われることもあります。毎週末に実際の裁判例と架空の裁判例を混ぜた長文の練習問題 4 問に記述式で回答する課題が課され、例えば企業同士の紛争例が示されたあとに、自分ならどのようにその問題を解決するか: 最大の争点は何か、どの法律が適用できるか、被告(被害者)はどのように反論すると思われるか、など様々な側面を自分で考えて自分の意見とともに記述します。簡単ではなくとも、確実に記述力とアメリカの法制度に対する理解が深まる授業であることは間違いないと感じました。試験は中間、中間、期末と3つあり、全て対面/選択問題式で行われます。
感想を自由記入	この授業は朝 8:00 からの授業で体力的にきついと感じる日があったこと、教授が各章50枚ほどあるパワーポイントスライドを前後に行ったり来たり大きくページを飛んだりしながら解説されていました、予定されていた範囲を大幅カットして特定の章の内容を深く掘り下げるなどの急な変更があったりして、理解が追いつかないことがありました。正直なところ、同じ教授・時間帯の BLAW220 の授業を取るならば、BLAW309 の授業を取ることをおすすめしたいと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Marketing (MKTG300)	マーケティング基礎
科目設置学部・研究科	ビジネス学部(College of Business, COB)
履修期間	2023 年度秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Praveen Soni
授業内容	マーケティングの基本知識に関する授業です。具体的には、マーケティングの概要、企業の比較優位性、倫理と社会的責任、セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング、市場リサーチ、商品コンセプト、マーケティングコミュニケーション、アドバタイジングとPR、販売促進など幅広いマーケティングに関する分野を学習します。
試験・課題など	授業では主にパワーポイントスライドを用いて学習します。提出課題としては、外部サイトを介して各章 25 間の長文問題が課され、テスト日までに完了させる必要がありました。テストに関して、中間、中間、中間、期末と学期中に4回あり、成績評価の75%を占めるためほぼ試験結果で成績が決まると言えます。試験は対面/選択問題式で行われます。パワーポイントスライドを細かいところまで読み込んでおかないとテストでは高得点を狙えないように設計されていたので、授業で少しでも理解を深めつつ、テスト日までコツコツとパワーポイントスライドを読み進める必要がありました。
感想を自由記入	ほかのマーケティングの授業に比べて扱う学習範囲が広く、テスト結果でほぼ成績が決まるという点で初めは緊張もありましたが、教授がみんなの名前を覚えて呼んでくださるほどとても優しい方で、授業内・授業後の質問対応にも快く応じてくださいました。授業のパワーポイントスライドをきちんと読み込んでいればテストの長文選択も問題なく pass できるようになっていたので、マーケティングやビジネスを学ぶために留学をする人には一度受講をおすすめしたい授業です。



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Mass Media and Society (JOUR110)	マスマディアと社会
科目設置学部・研究科	教養学部(College of Liberal Arts, CLA)
履修期間	2024 年度春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が1回
担当教授	Gary Metzker
授業内容	メディアの歴史やメディアの専門基礎知識に関する授業です。具体的には、メディアとは何か、本、雑誌、新聞、ラジオ、映画、ハリウッド、テレビ、ソーシャルメディア、PR、広告、メディアに関する法と倫理についての裁判例を学習します。メディアに特化した授業ということで、マーケティングの授業で習うメディアの役割とも内容として重複する部分があります。
試験・課題など	授業は、教授が YouTube やインターネット上のウェブサイトをプロジェクターに投影して生徒に見せながら進められ、特に決まった教材等ではなく、全体でのオープンなディスカッションも行われます。毎週末の課題としては、ディスカッション課題で自分の意見を投稿することと2, 3人の意見に対して返信するかたちで投稿することが主な課題でした。毎週末の課題に加え、2つのレポート課題(自分のメディア使用の傾向分析と、1日メディアを使わずに生活する実験レポート)が学期を通して課されていました。試験は中間と期末の2つで、どちらもオンラインで非対面/選択問題・記述式で行われます。
感想を自由記入	教授がとてもユーモアあふれる方で、専攻に関係なく受講を強くおすすめしたいです。(秘密ですが)授業シラバスの中に見つけると加点がもらえる隠しポイントが隠されていたり、75分間予定の授業はいつも 9:30~10:00 前後のほぼ30分授業になっていて生徒の自由時間をできるだけ多く確保しようとしてくださっていたり、時事ネタを扱う面白い動画やウェブサイトをみんなで観たり…例えば大統領選挙を控えるアメリカでトランプ、バイデン両者を滑稽にした有名政治チャンネルを観ながら全体ディスカッションで盛り上がるような日があり、またある日はアメリカ最大のスポーツイベント「スーパーボウル」のCM比較を楽しんだり…「アメリカで今何が起き、何がメディアで注目されているのか」ということにも鋭くなれる授業だと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Management & Operations(MGMT300)	マネジメント基礎
科目設置学部・研究科	ビジネス学部(Colledge of Business, COB)
履修期間	2024 年度春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に165分が1回
担当教授	Kenji Klein
授業内容	マネジメントに必要な知識や計算についての授業です。具体的には、capacity(生産能力)や utilization(稼働率)の計算方法、リーン生産方式の特徴、組織における目標設定のしかた、ネットワーク、個人の性格と組織運営の難しさ、組織図と役職の分類などについて学習します。
試験・課題など	授業では主にスライドと、PDF(あるいは書籍の)教材を用いて学習します。週1の授業ではありますが、この授業はほかのどの授業よりも予習を重視している授業で、基本的に毎週授業前までに①解説動画1, 2本視聴②動画内容をまとめた手書きノートのスキャン・提出③その週に扱う章のテスト(30~40 ポイント)④翌週の授業内容に関連する問題 2, 3 問をノートに解く⑤毎週木曜日の 30 分間の podcast 視聴による Extra credit(やらなくてもよい、あくまで加点用)を学校のポータルサイト Canva 上で完了することが求められていました。テストは中間、中間、期末の3回あり、用語や計算問題、応用問題など約 50 問前後で構成され、パソコンのロックダウンプラウザ(監視システム)を用いて対面/選択問題・記述式で行われます。
感想を自由記入	上記の授業概要について読むと、難しい授業なのかな、やるべき課題が多く、と感じてしまうかもしれません、実際は動画を観ながら手書きでノートにまとめ、それを提出して関連する内容のテストを受ければそれで完了です。予習として課題にきちんと取り組んでいれば授業は簡単に理解でき、わかりやすく、ビジネス系の授業を受講予定の人にはマーケティングやビジネス法の授業にも応用できるのでぜひおすすめしたい授業です。計算も求められますが、授業内で丁寧な解説があるので、テストでは授業で学んだことをしっかりと發揮することができれば問題ないと思います。余談として、100~150人規模の授業でしたが、教授がほぼ全員の名前と顔を記憶し、積極的に生徒に話かけていたことが印象的でした。



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
The Consumer in the Legal and Economic Environment (BLAW309)	法と経済からみる消費者
科目設置学部・研究科	ビジネス学部(Colledge of Business)
履修期間	2024 年度春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Terrence Giannone
授業内容	消費者に関する法律や裁判例についての授業です。具体的には、裁判の仕組み、ADR(裁判外紛争解決手続)、製造責任、保険、家の購入の手続、建設欠陥の訴訟、知的財産権、環境に関する法、マネジメント責任について学習しました。
試験・課題など	授業では主にパワーポイントスライドを用いて学習します。毎週末の課題等は特にありませんでしたが、学期の終わりごろに、全員の前で自身の消費者問題に関する経験について簡単にプレゼンをする機会がありました。また、申込制で、大学でのシンポジウムへやボートで世界第2位の貿易港として知られるロングビーチ港を見学するツアーに無料で参加する機会もあり、成績加点の対象となります。試験は中間、中間、期末と3回あり、いずれも対面/選択問題式で行われます。成績ウェイトに関して、試験成績は全体の87%を占めており、この授業の成績はほぼ試験結果で決まると考えていいと思います。
感想を自由記入	授業内容としては、BLAW220 の裁判の仕組みやアメリカにおける重要な法律を学ぶ授業の、延長線上にある授業だと感じました。20人ほどの人数とゼミのような授業スタイルで、気さくな教授が授業中も冗談を言って生徒を何度も笑わせていたのが印象的でした。授業そのものも興味深かったですが、何よりも授業を通じて申込みができる社会科見学が無料で魅力的でした。特に、ロングビーチ港の見学は遊覧船に近い人たちで開催され、楽しみながら他のビジネス学部生ともたくさんつながることができる貴重な機会だったと感じます。



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Advertising and Promotion I (MKTG330)	広告とプロモーション1
科目設置学部・研究科	ビジネス学部(Colledge of Business, COB)
履修期間	2024 年度春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Risto Moisio
授業内容	マーケティングの中でも特に広告・宣伝について学習する授業です。具体的には、IMC(Integrated Marketing Communication)の概念、ブランドエクイティ、ブランドの知的財産権、セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング、メディアの種類と役割、広告・宣伝、販売促進、パッケージング、スポンサーシップ、PRの役割などについて学習します。
試験・課題など	授業では主にパワーポイントスライドを用いて学習します。課題等は特にありませんでしたが、授業内の15~30分という短い時間でグループワークを行い成果物を提出するということを複数回行いました。また、学期に最後に自分たちで5人ほどのグループを作り、クリエイティブブリーフ作成やポスター作成、インフルエンサーの選定に取り組むような、全体成績の約20%を占める大きなグループワークもありました。テスト問題は主に教科書内容を踏まえた上での出題になるので、課題がなくても日々コソコソと教科書を読み進める必要があります。また、教授が試験1週間前にアップロードする Study Guide(テスト勉強をする上でヒントになるようなもの)がテスト対策には大いに役立ちます。試験は中間、中間、中間、期末の4回あり、全40問の対面/選択問題式で行われます。
感想を自由記入	マーケティングにおける必要な知識・概念を学びながら、実際に自分たちでどのようなコンセプトで、どのような謳い文句で、どのようなビジュアルで売り出すかを考えるグループワークでの実践の機会が圧倒的に多く、とても気付きや学びの大きい授業だったと感じます。授業で紹介されるマーケティング例も、基本的にはアメリカで成功している企業が取り上げられるので、日本とは違う視点からマーケティングへの理解を深めることができておすすめです。テストに関しては、Study Guide をきちんと押さえれば問題ないですし、上手く活用したことで私自身も日本からの留学生でありながらテストで全体1位をとることができました。授業では気になったことなどを自由に発言できる雰囲気があり、リラックスして学ぶことができる授業の一つだと思います。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えて下さい。また、その企業を選んだ理由も教えて下さい。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えて下さい。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えて下さい。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	TOEFL 対策
	8月～9月	
	10月～12月	TOEFL 受験
留学開始年	1月～3月	出願、航空券の購入、履修希望提出、留学オリエンテーション、奨学金応募
	4月～7月	予防接種、ビザ申請、寮の手続き
	8月～9月	渡航、留学開始
	10月～12月	中間試験、期末試験
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	中間試験、期末試験、帰国、留学報告書の作成、就活
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

<留学前に知っておいてほしいこと>

「留学目標の軸をはっきりと決める」ことが最も大切だと思います。そしてぜひ、自分の留学軸と留学希望先の強みを関連させながらアピールしてみてください。私の場合、「マーケティングの知識を習得し現地で実践すること」と「日本文化を発信すること」の2つを自分の留学軸として、ロングビーチ校がいかに多様性とビジネスを学ぶ環境として優れているかを関連付けながら、留学選考と奨学金選考に臨みました。自身の留学軸を他者に明確に伝えることができれば、自分が理想とする留学を実現させられる可能性は高くなりますし、留学すること自体の説得力も増すと思います。

次に大切なのは、「分からなかつたらすぐに聞く」ということだと思います。留学に関する手続きで分からないことがあるときなど、後回しにせずに友達や教授にすぐ質問して解決すれば、自分の中の留学に対する不安を少しでも解消して、より自信を持って留学にチャレンジすることができるようになると思います。英語など日本語以外の言語を使って慣れない環境で生活をする上で、悩みや疑問点があったときには周囲に聞いたり相談したりすることで解決する必要があるので、周囲と協力することや周囲に頼ることはとても大事だと思います。

最後に、これは留学中においても大事なことになりますが、「自信をもって常に積極的にチャレンジすること」をぜひ心掛けてほしいです。留学選考において、倍率を気にして第一志望を変えるべきか迷っている方もいるかもしれません。ただ、自分が本当にやってみたいことは何か、ということを常に意識して「やらなかつた後悔よりもやつた後悔」というマインドで、自信をもって留学にチャレンジしてほしいです。そして留学が実現した暁には、新しい仲間との出会いを大切に、ぜひ留学を通じて日本では経験できないようなことにたくさん挑戦してください！応援しています！